

..... 編集後記

◆ 今年の梅雨明けは七月中旬、以後は暑く晴れた日が続きました。八月は葉月、葉月と言えやお盆、お盆と言え、迎え火、精霊(灯籠)流し、送り火、盆踊り、地藏盆、と子供の頃のなつかしい記憶がよみがえります。お盆は、静かに祖霊をお迎えし、お祀りし、そしてお送りする一連の行事ですが、徳島の阿波踊りや沖縄のエイサーも、以外と思われるかもしれませんが、起源は盆踊りだそうです。これは、もともと慰霊のための踊りとして始まったものが、やがて夏の暑い時期のストレス発散や、人と人との交歓のための踊りに転化していったような気がしますでしょうか。

◆ お盆と言えはもうひとつ目にする光景は、交通機関の混雑ぶりです。お盆は本来、故郷へ帰って家族親戚と、静かに祖霊を祀るための行事だったのですが、いまでは避暑のためと言うか、仕事からの骨休めと言うか、故郷へ帰る人、故郷から戻る人で、駅や道路は人と車で大混雑です。何とかならないものかと、いつも感じるのですが、年に一度、帰郷して家族親戚や友人に会うのも大切です。昨年とはまた、お盆の時期に地質調査に出張するハメになり、人や車のラッシュに巻き込まれてひどい目に遭いました。皆さんはいかがでしょう。

◆ さて今月号の特集は、今年6月に東京で開催された地質調査総合センター記念講演会です。その一つ、来賓としてお招きしたUSGSのジェームズ・F デバイン上級科学顧問の記念講演は、20世紀の地質調査所の役割と功績について振り返ったあと、今世紀には地質調査所の存在や地質分野の調査研究、特に環

境方面の分野が社会を維持発展させていく上で、ますます重要になると述べています。私たちにも大いに参考になる内容です。

◆ もう一つ、雲仙火山掘削について講演していただいた島原市長からの熱いメッセージは、心強いわれわれへの応援です。地域社会と地質調査総合センターとの連携のあり方を示す好例ではないでしょうか。「災いを転じて福となす」と言う表現が適切かどうか分かりませんが、最近「雲仙岳災害記念館」が地元オープンしました。これは、周辺の関連施設や道路を一体化した火山観光フィールドミュージアム構想の核となるそうです。お近くにお出かけのさい、立ち寄られてはいかがでしょうか。

◆ もう一つの特集は、先月号に引き続き、「環境を記録する生物」その2として、珪質生物(貝形虫、渦鞭毛藻、珪藻、放散中)の特集です。先月号の石灰質動物とあわせ、この研究分野の新しい動向がお分かりになったと思います。

◆ 「近畿の地質図展」は、これまで地質学会との関連で催されていた「地質情報展」を、地質図・地質主題図の展示を中心にした小回りの利く「地質図展」にした催しです。今年、北海道で開催されたように、これからは各地に出張する予定です。「近畿の地質図展」には私も参加しましたが、床面一杯に地元の地質図を張り合わせて展示したのがヒットでした。確かにこうすれば、来訪者との話のきっかけになり、話がおおいにはずみました。いずれ皆様の地元にもお邪魔する機会があると存じます。ご期待下さい。(吉田史郎)

地質ニュース編集委員会

委員長：吉田史郎

副委員長：谷田部信郎

委員：磯部一洋・関口春子・中島 隆・
安川香澄・飯笹幸吉

連絡先：地質調査総合センター 地質標本館
〒305-8567 茨城県つくば市東1-1-1
Tel. 0298-61-3754
Fax. 0298-61-3569

地質ニュース	第576号	2002年	8月号
	2002年8月1日	発行	定価 ¥785 (本体価格 ¥748) 円実費
編集	産業技術総合研究所		
発行人	株式会社 実業公報社		
	代表者 林 光生		
発行所	株式会社 実業公報社		
	東京都千代田区九段北1の7の8		〒102-0073
	Tel. (03) 3265-0951 (代表)		
	Fax. (03) 3265-0952		
	振替口座 00110-6-32466		
	麹町局私書箱第21号		
印刷	株式会社 エアフォルク		

© 2002 Geological Survey of Japan

●本誌は東京都の霞ヶ関政府刊行物サービスセンター
およびつくば市の友朋堂書店本店に常備してあります。
また、最寄りの書店でも注文できます。

地質ニュースに関するご意見は編集委員会へ